

育てたい街
暮らしたい街
訪れたい街

インスタグラム



公式LINE

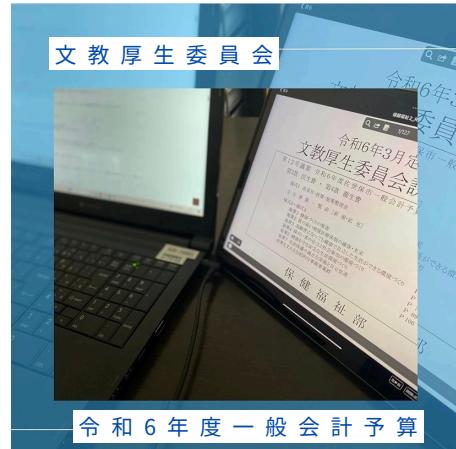


▶日々の活動は、インスタグラム

Search 本田 ひろし

で検索！！

▶議員活動・地域活動（抜粋）



日本を取り巻く安全保障環境は複雑化しています。国防に対する国民意識醸成と自衛隊の意義を再認識する大切な機会となりました。

初めての新年度当初予算審査を行いました。文教厚生委員会委員として、教育・子育て・福祉等に係る予算をしっかりと精査しました。

捨てられた動物たち。愛護センターの役割を皆様に知っていただくと共に、殺処分ゼロを目指して私も啓発活動を引き続き継続します。

▶議員1年目を終えて

皆様から温かいご支援をいただき、市議会議員の1年目を終えました。議員活動、地域活動とともに、とても濃密な1年間となりました。

1年の中で、特に印象深い仕事は、中3給食費無償化に係る条例改正の文教厚生委員会審査でした。対象の狭さ・恒久財源の裏付け・優先度など、諸課題を勘案した結果、私は審査を継続するべきと考えました。については、行政側に何度も徹底して質疑し、課題解決の答弁を引き出すことに努めました。

委員会審査は、一般質問と異なり、テレビ中継もなく、皆様に審査状況が分かりにくい面があります。しかし、佐世保市政の根幹である事業や財源に向き合い、議論を深める。まさに議員たる仕事です。その一端に関わったことに、やりがいと喜びを感じるとともに、今一度気を引き締めて2年目を突き進む覚悟です。

▶経歴

1979 昭和54年	3月22日生まれ
1985 昭和60年	東大野幼稚園 卒園
1991 平成03年	三川内小学校 卒業
1994 平成06年	三川内中学校 卒業
1997 平成09年	佐世保南高等学校 卒業
2002 平成14年	広島大学 法学部法学科 卒業
2003 平成15年	実家の窯業にて父に師事
2006 平成18年	衆議院議員私設秘書・公設第一秘書
2013 平成25年	市長私設秘書
2022 令和04年	社会医療法人財団白十字会 入社
2023 令和05年	佐世保市議会議員 初当選



▶本田ひろし後援会事務所

【住 所】 〒859-3157
長崎県佐世保市桑木場町450-2
【電 話】 080-8396-3629
【mail】 hiroshihonda.official@gmail.com

後援会入会



1年間の一般質問内容

問 ▶ 小中学校におけるいじめ重大事態について

市立小中学校でいじめ重大事態が発生した場合における関係者への向き合い方を中心とした、学校・教育委員会の初動・現状・今後の対応について伺いました。

問 ▶ 子どもの学校外におけるクラブ・教育活動等について

部活動の段階的な地域移行に伴い指導するクラブ活動、または通塾などの学校外教育に係る子育て世帯の経済的負担に対する考え方を伺いました。

▷ 詳細は活動報告01に掲載

問 ▶ コミュニティセンターの施設再編について

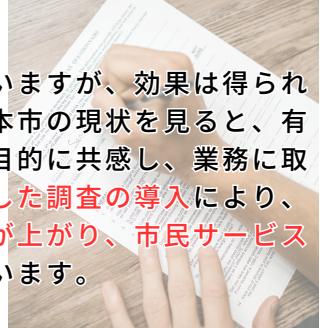
各コミュニティセンターの施設再編に伴う、地域コミュニティへの影響と課題に触れながら、それらの解決策を中心とした地域との連携の在り方を伺いました。

問 ▶ 医療的ケア児とその家族の周辺環境について

医療的ケア児とその家族に対する現状と課題について、本市の認識と今後の向き合い方を伺いました。

▷ 詳細は活動報告02に掲載

問 ▶ 職員に対する意識調査について

現在、佐世保市では、人事評価制度や職員意識調査を実施されていますが、効果は得られているのでしょうか。メンタル要因の休職や若手職員が離職する本市の現状を見ると、有効な対策には至っていないと考えます。職員が行政のビジョンや目的に共感し、業務に取り組む意欲や生産性を示す指標である、エンゲージメントを意識した調査の導入により、人材マネジメントの課題や要因を分析することで、仕事の生産性が上がり、市民サービスにも還元できると考えます。この取組について、市長の所見を伺います。

答

御指摘の人事評価制度については、職員の努力が報われるような制度構築に努めます。職員意識調査においては、職員の抱える問題や潜在的な課題を十分に把握できるよう改善を図ります。御提案のエンゲージメントを意識した調査については、他都市の状況を注視しつつ効果を見極めながら取り組むとともに、職員と自由に意見交換を行う新たな取組等を実施し、職員がよりよく働ける環境づくりに努めていきたいと考えています。

その他の質問 ▶ 防犯カメラをはじめとした防犯対策について

▶ 子どもたちの見守りについて

▷ 詳細は佐世保市議会HPで

問 ▶ ごみ処理行政の現状と課題について

資源の浪費をなくし、ごみを出さないことを意味する「ゼロ・ウェイリスト」の考え方には、近年国内でも広まりつつあります。市民に最も身近なごみ行政である家庭ごみの有料化制度に関し、排出量削減の目的は達成されたと思われる一方、袋の価格や事務の煩雑さなど、問題も指摘されています。単純従量制への移行など、見直しの必要性について、市はどう考えていますか。

答

家庭ごみの1人1日当たりの排出量は、有料化制度を開始した平成17年度の613グラムから、令和4年度には527グラムまで減少しています。市民の大多数は無料の範囲でごみを排出していることもあり、令和8年度までは現行の制度を継続する方針ですが、無料の範囲を超えた場合の手数料の負担の大きさや販売店の事務負担といった課題は認識しています。これらも踏まえ、令和9年度以降も現制度を維持するか、一律のごみ処理手数料を賦課する単純従量制に変更するのか、今後検討を進めていきたいと考えています。

その他の質問

▶ 本市における国際交流事業について

▶ 本市の多様性社会に対する考え方について

▷ 詳細は佐世保市議会HPで